

令和元年度 大阪府立旭高等学校 第3回学校運営協議会

日時：令和2年1月27日（月）午後2時30分～午後4時30分

場所：本校会議室

委員

会長	関西大学文学部 准教授	森 勇太	
副会長	大阪市立旭陽中学校 校長	辰巳 千佳子	校務のため欠席
委員	大阪市立高殿小学校 校長	北浦 正美	
委員	平成28年度本校PTA 会計監査	徳島 美穂	
委員	本校PTA副会長	佐藤 章子	
委員	本校PTA会計	安藤 裕美子	

1 校長挨拶

省略

2 委員挨拶

省略

3 資料の説明（校長および学校側事務局員より）

□「平成31年度 学校経営計画および学校評価」について（本年度の取組内容及び自己評価）

- 総合的な学習の時間(3年、2年)、総合的な探究の時間(1年)で、「主体的、対話的で深い学び」を目標に取り組んでいる。2年生では、より深い探究活動を行うために「連続講座」を実施した。ポートフォリオとしてAsahi Cardを活用し、入学時から卒業時まで「総合的な学習（探究）の時間」等の学びの軌跡を蓄積している。
- 進学希望者の講習、試験前の授業の補習など、多様な補習・講習の機会を提供できた。また、大学生のインターンシップによる試験前の学習支援を、2学期中間、期末考査前に実施した。生徒によっては、家庭教師のように積極的に利用していた。
- 学力診断テスト、模擬試験、進路講演会、大学見学会、大学講師による模擬授業など、進路関係行事を例年通り行うことができた。
- 4年制大学の合格者数について、現時点(1月末)では昨年度と同程度の合格者数となっている。一般入試に臨む生徒も多いので、現時点の数よりは大きく増えるであろう。
- 留学生を今年度もドイツ、スイス、インドネシアから計3人受け入れ、生徒と一緒に学校生活に参加している。また、10月末には、タイの姉妹校から約1週間生徒を受け入れた。本校生に、異文化とじかに触れ合う良い機会を与えている。
- 大阪府立高校国際関係学科10校によるインターナショナルフェスティバルに参加した。この中で行われた第2外国語の暗唱大会では、本校1年生の生徒が入賞した。また、本校生がフェスティバルの司会を務め、大いに活躍した。
- 英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験については、文部科学省の大学入試共通テストの方針変更を受け、一旦、様子見状態である。従来から取り組んでいる英語検定については、依然として多くの私立大学で推薦入試の評価項目とされていることから、引き続き校内実施を続けてい

く。今年度の英語検定準 2 級の受験者数は、例年の倍以上となり、生徒の関心の高さがうかがえる。

- 今年度はオーストラリアの姉妹校であるアデレードハイスクールを本校生徒が語学研修として、訪問、ホームステイを実施した。また、例年英国で行っていた語学研修プログラムは、今年度は新たにアイルランドで実施した。いずれの語学研修でも、参加した生徒が、以前よりも外国語で積極的に会話するようになった。
- 学期初めの生活指導方針の確認に不十分な点があり、生徒との意見の相違があったが、学校の指導方針が変わったわけではない。遅刻者数は生徒一人あたりの数でいうと、昨年度から減少したとは言えない。遅刻の原因はやはり寝坊が多いが、近年、体調不良を訴える生徒が増えてきている。
- 通学中の交通事故で、事故後の対処(負傷者の救護、警察への連絡等)が十分でなく、トラブル等に発展するおそれが見られた。そこで、事故時の対応についての指導を行なうとともに、薬物乱用防止講演会で警察の方に来ていただく際に、交通安全指導の観点からの話もしてもらっている。
- 生徒を急病等で搬送するとき、本校の古く狭い階段を使って、担架で搬送することが難しく安全のために人手が必要であった。危機管理のため、エバキュレーションチェア(階段をそりのように滑らせて要救護者を運ぶことができる車いすのようなもの)を導入した。導入から半年程度だが、既に数回使用している。
- 教職員研修として、生徒理解に関する研修、SNS 利用に関する研修を実施した。また、教員の研究授業を皆で参観し、授業研修を行った。
- 通常の避難訓練に加え、緊急事態を想定した避難訓練を立案した。
- 将来構想委員会を発足、定例で開催し、新学習指導要領に対応した教育課程編成など、学校全体に関する課題を整理し、課題解決に向けた取り組みの先鞭をつけた。
- 業務の scrap and build については、新しい業務は増えたものの従前の業務を減らすことは十分にできていない。

□「学校教育自己診断」の結果・分析について

- 保護者からの回答について、「子どもは学校行くのを楽しみにしている」「将来の進路や職業について適切に指導」など 4 項目について、それぞれ肯定的回答が昨年度よりもやや高くなったが、「生活指導方針に共感」についてはやや減少(68.5%→65.3%)した。おおむね、「生徒の気持ちを受け止めつつ、学習、進路、行事などの指導がきちんとできている」が、「規律ある学校生活を基本に、学習や行事、部活動などに積極的に取り組む」という本校の指導方針を一層ていねいに説明し、共感を得る努力が必要と受け止めたい。
- 「学校は、いじめについて子どもが困っていれば真剣に対応」について、肯定的な回答が一昨年と比べ 10 ポイントも上昇した。(27.5%→34.5%→37.7%) いじめアンケートを年 3 回行なうなど、徐々にではあるがいじめを見逃さない取り組みが進んでいると考えられる。一方、同じ問いで「判断できない」との回答が 49.1%であるが、いじめで子どもが困っているという状況そのものがたいへん少ないので、このような回答が多いと思われる。
- 保護者の回答で、学習活動について「子どもは授業がわかりやすく興味深いと言っている」の肯定的回答は 40.2%であるが、同様の設問での生徒は 59.0%が肯定的に回答しており、授業アンケート

でも 80%超の生徒が「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」と回答している。こうした結果から、「わかりやすい授業」という点では一定の成果が出ていると考えられるが、生徒が一科目でもわかりにくいと感じている授業があると、「全部の授業が理解できていないのではないか」と保護者の方が心配されている状況が考えられるのではないか。

- 平日・休日とも家庭学習の時間が短いのが課題である。進路の目標を早めに明確に描かせるなどして、地道な学習の積み上げを促したい。
- 学校から家庭への連絡について、ライデンメールの導入により、学校からの情報発信が進んだ。「学校が家庭連絡を積極的に行っている」の肯定的回答が昨年度より約 10 ポイント上昇し、66.3%となった。

□広報活動について

- 「公立高校進学フェア 2020」は、7月21日(日)インテックス大阪で開催。たくさんの方に来場いただけた。用意した学校案内 2000 部をすべて配布した。
- 中学校訪問は、新教育課程及び大学入試共通テストへの対応、国際文化科への学科改編などの教育内容が未定のため、今年度は一時中断している。その分、区 PTA や民間教育団体主催の説明会には、昨年度以上の説明会に参加し、旭高校を志望する中学生・保護者に広報活動を行なった。いずれの会場も、ブースは盛況であった。
- オープンスクールは、10月から12月までに3回実施した。参加者数は昨年度とほぼ同程度(3回の合計で1791名参加)。保護者の参加が増加傾向。地域別では、市内府内各地域から参加者が増えているが、旧第4学区(京阪・JR学研都市線沿線地域)からの参加者のみ前年と比べ減少している。

□「令和2年度 学校経営計画および学校評価」について

- 令和元年度から大きな変更点はない。
- 英語の4技能評価にかかる民間の資格・検定試験についてはあえてGTECに関する記述は外し、従来からの英語検定を軸に、生徒の希望に沿ったサポートを行ってゆくこととした。
- 生徒支援委員会の充実については重点的に取り組みたい。

□令和2年度 使用教科書一覧

- 各教科が選定し、校長から教育委員会に申請している。

□令和2年度入学生教育課程について

- 令和元年度から変更点はない。

4 協議 「学校経営計画および学校評価についての提言」(●学校運営協議会委員 □学校側事務局員)

- : 学校教育自己診断の生徒からの回答について、「後輩に旭高校を勧めるか」と「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定的回答の割合が昨年度までと比べて今年度は大きく下がっているが、どのように分析しているのか。

□ : 分析していて気になってはいたが、具体的な内容を回答する設問ではなく、はっきりと思い当たる原

因があるわけではない。

●：特に3年生の回答が下がっていたとのことだったので、入学してきたときの自分の進路希望が実現しにくくなったということなのか。学校や先生が変わったというよりは外部の要因が影響しているということなのか。

□：文化祭についてのアンケートで、「化粧や仮装などで楽しめたかったが、認められなかった」という回答があった。

□：3年生の一部の生徒が、特に文化祭で指導されていた。生徒としては「これくらいはいいだろう」と思っていたのではないだろうか。文化祭以外でも「これくらいはいいだろう」と生徒が思っていることが多くなったように感じる。

□：SNSなどで他の学校の様子や情報を手に入れやすくなったため、「他の学校と比べてどうか」ということを生徒が考えているように感じる。例えば、旭高校の文化祭では生徒が模擬店で飲食物を扱うことはできないとしているが、飲食物を扱う学校もある。今年の文化祭では、体育館のステージで演劇をするクラスが例年より少なかったが、文化祭はただ楽しむだけの行事ではなく、「自分たちがどう表現するのか」が問われる場所だということを生徒が再認識できるよう指導を考えたい。文化祭に限らず生活指導全般について、特に厳しいルールとは感じないが、生徒たちは厳しいと感じているのかもしれない。行事や生活のルールに納得がいかず厳しいと感じるならば、生徒が言葉にして、自分たちでより良いルールを作っていこうという動きがあれば、対話していきたい。

●：そうしたことは大学でも同じで、一般に、匿名だと厳しい意見が出るが、記名では意見の雰囲気が大きく変わってしまう。SNSでは、自分に都合のいい意見ばかりに目が行ってしまいがちだといえる。

□：「これくらいはいいだろう」と思っていることが指導されると「先生は生徒の意見を聞いてくれない」ということになってしまうのではないかと。生徒会執行部はアンケートを取ったり提言したりしている。教員も生徒の意見を聞いて判断するということが自体は大事である。

●：ライデンメールについて、きめ細かく配信していただけてすごく助かる。誰が配信しているのか。

□：基本的には各学年主任から配信している。保護者の方からは、好評をいただいている。

□：地域で事件が起こった時や、教育に関する大きなニュースがあった時に、即時性を持って学校の考え方を伝えることができるのは良い。学校が送る/家庭が受け取るというやり取りが日常になれば、緊急時にも見てもらえるようになって良い。

●：配信のペースはどのようになっているのですか。

□：学年としては2年生が一番多く配信している。修学旅行や科目選択など連絡事項が多かった。多い時で週に1回くらい。

●：新しいシステムはせっかく導入しても使われないことも多い。システムを定期的に使うということは大変だが大事なことである。これからもぜひ続けてほしい。

●：家庭学習の時間が短い、1日30分未満と回答している生徒が多いとあったが、この回答には塾などで勉強している時間は入っているのだろうか。

□：塾での勉強時間が含まれているかは不明である。塾の時間が入っていないのなら、回答以上に勉強していることになるので良いことだが…。

- ：一方で、約 1/4 の生徒は「2 時間以上勉強している」と回答している。予習・復習を日々行っている生徒と思われる。
- ：生徒からの声で、「旭高校は宿題や課題の量が多い」というものもある。宿題や課題をしていると家庭学習時間は少なくとも 30 分以上になるはずだが、宿題・課題さえしていない生徒が相当数いるということか。
- ：大学でも、家庭学習をしていないというアンケート結果がある。大学の単位は講義とその前後の自主的な学習があって 1 単位と計算されるものである。しかし何を学習すればいいのかわからないから何もしないという学生が文系を中心に多く見受けられる。
- ：他のアンケート調査で「必要だと思う学習時間はどれくらいか」という設問があった。生徒はそれに 1 時間くらい多い時間を回答している。もう少し学習時間が必要だと生徒も思っているが、できていないということのようだ。
- ：今はスマホアプリで勉強するというのも手軽にできるようになった。通学中などの少しの時間でもそういったものが利用できれば、学習時間の増加につながるのではないか。
- ：我が家では家に帰ってきてから結構勉強しているように思う。目標があると取り組むことができるのではないか。目標が漠然としていると、腰を据えて取り組むことができないのではないか。目標が決まると何をすべきか計画が立てられる。それを積み上げていければ良い。
- ：昼休みに図書室で自習する生徒が、近年の中では今年が一番多かった。こういった時間が「家庭学習」には反映されていないだけであれば、家庭学習の時間が短くても大丈夫なのではないか。
- ：「家庭学習」という設問の言葉を「学校の授業以外での学習」などにしてもいいかもしれない。
- ：インターンシップの方の取り組み（大学生による放課後学習支援）も見聞きしたが、良かったように思う。こういったものも積極的に活用して学習をしてもらえれば良い。

- ：いじめの対策についてアンケートでは肯定的回答が多かったとのことだったが、そもそも学校がいじめとして認識している事案が存在するのか、それに十分対応できているのかが知りたい。
- ：実際にいじめが疑われる事案は存在した。クラブ活動の中でのトラブルなど数件あった。いずれもクラブ顧問や担任からの情報をもとに、校長や教頭も交えて学校として組織的に対応している。
- ：いじめに関するアンケートを定期的実施していて、記名されていれば教員が確認し対応している。
- ：事案ごとに学校が対応しているのか、対応するための機関が常設されているのか。
- ：組織的には生徒支援委員会が常設されていて、会議を週に 1 度開催している。いじめについてはこの委員会が中心となって学校全体で組織的に対応している。
- ：「いじめに関するアンケート」が年に 1 回、「安全で安心な学校生活を過ごすために」アンケートが年に 2 回実施されている。後者は、いじめ以外にも体罰やセクハラ等、生徒が学校生活の中で困っていることを回答するようになっている。
- ：これらのアンケートは記名で行っている。無記名では対応が取りにくい。記名だと回答しにくいかもしれないが、しっかりと回答してくれるし、十分な対応が取れるようになる。
- ：何も書くことがない生徒も含めて全員がアンケートを一旦持ち帰ってから、封筒に入れて後日に提出するようにしている。何か書く際に時間をかけて書きやすいようにこの形式で実施している。
- ：スマートフォンについて、生徒は学校の中ではスマホをロッカーの中に入れておくようになっている。先

生方だけでも何か緊急事態が起こった時に備えてスマホを常に持っていただけていると保護者としては安心できるが、先生方は授業の時などにスマホはどうされているのか。

□：多くの先生は学年室や準備室のロッカーや机の中などに入れていて、授業には持ってっていないのではないかと思う。

□：学校の中にいるときは、連絡が取れるものと考えている。本部があつて、緊急時には対応を指揮することになっている。原則として各棟の各階に教員の部屋があるので、そこから連絡が取れるものと考えている。

●：地震が起こった際には、緊急地震速報を各教室で受信できるようになっているのか。

□：各教室にはないが、教務室や事務室で受信して放送等で連絡する体制になっている。

●：学校教育自己診断について、肯定的な回答が多く、満足度が高いことがうかがえるのは良いことではないか。生徒がよりよい学校生活を送ることができるように、学校は取り組みを続けてほしい。

以上の協議を経て、「平成 31 年度 学校経営計画および学校評価」および「令和 2 年度 学校経営計画および学校評価」が承認された。

10 校長謝辞

- 学校経営計画を承認していただけたので、微修正はあるかもしれないが、これに沿って今後の学校経営を行いたい。